

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	1035-2 景観整備事業(いぶし瓦の常夜灯維持管理経費)	会計	01	一般会計
		款	02	総務費
		項	01	総務管理費
基本施策	29 伊賀市らしい景観を守り、活かす	目	06	企画費
		細目	122	地域振興経費
行革大綱の重点事項番号		1	細々目	03 景観整備事業
担当部課	コード	700100	担当者氏名	西崎 剛人
	名称	大山田支所振興課		
		連絡先	47 - 1150 (内線) 234	

**事務事業の概要(Plan)**

対象(誰を、何を)	いぶし瓦の常夜灯の維持管理を行う自治会	※対象件数	22地区
成果(どうする)	常夜灯の電気料金を助成することで、自治会の負担が軽減される。常夜灯の点灯により夜間の景観が改善される。		
根拠法令・要綱等	伊賀市大山田地域常夜灯維持管理経費補助金交付要綱		
開始年度	平成 21 年度	関連事業	伊賀市街路灯維持管理経費補助金交付要綱
終了年度	平成 年度		
H21 事業内容	・大山田財産区特別会計から一般会計へ繰入れ、自治会が維持管理する常夜灯の年間電気料の一部を助成する。 ・助成額=(12月の常夜灯の電気料-12月の街路灯の電気料)×12ヶ月×常夜灯の灯数		
社会情勢の変化等	常夜灯の設置数(72基)は増加することはないが、補助金については当該年度の12月の電気料で算定されるので年度により増減する。		

**整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)**

1 建設用地	
2 建設面積(延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

**運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)**

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の類似施設	

**事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)**

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
常夜灯維持管理経費助成金	円	目標		531,000	531,000	531,000
		実績		424,656		
		目標				
		実績				

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
補助をした常夜灯数	基	補助対象の常夜灯数は72基であるが、申請を受理し、補助金を交付した常夜灯の数。	目標		72	72	72
			実績		72		
			目標				
			実績				

投入コスト	H20 決算	H21 決算	H22 当初予算	H23 当初要求	
					(千円)
直接事業費計(A)		425	531	531	
Aの財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他	0	425	531	531
	一般財源	0	0	0	0
事業投入人件費(B)	人	0.05人	360人	360人	
フルコスト(A)+(B)	0	785	891	891	

**事務事業の評価(Check)**

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)	
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	○	常夜灯の積極的な維持管理が行われ、夜間の地域の美観につながる。
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業		
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業		
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業		
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業		
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業		
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業		
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業		
	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業		
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業		
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業	○		
【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】			
地区(自治会)の要望により行政が設置し、維持管理は地区が行っている。設置は地区に各1基ではなく、5基・6基と多く設置されている地区があり、地区と行政の協働事業である。	○		
財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業	○		
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】			
いぶし瓦の常夜灯は、温か味が感じられるようナトリウム灯を使用していることから、電気料金は蛍光灯の街路灯に比べ3倍以上の電気代になる。補助金がなくなると地区(自治会)の負担になる、如いては住民の負			
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高サービス水準や対象を見直す余地がある。		
達成度	当初設定した計画を <b>100%</b> 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】 予算の繰越の有無 <b>無</b> 【予算の繰越がある場合、繰越の種別】		
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。【事業名】 受益者負担を求めることができる事業である。全体コストにおける負担構成は適正である。コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。		

**昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況**

改善策	今後の課題として、シンポジウムの開催は、協働からゆめさき会単独主催に改善の必要がある。
昨年度の取組状況	【状況】 <b>計画のとおり進んでいる</b> 【詳細】 補助対象である72基の常夜灯を維持管理している22の自治会に対して補助金を交付した。

**今後の方向性(Action)**

評価者氏名(担当課長)	土永 瑞穂
事業の方向性	【方向性】 <b>現状維持</b> 【理由】 大山田地域らしい景観を維持管理していくために、事業内容は現状維持とする。
現時点における課題、その他	常夜灯の電球ナトリウム灯の価格は1万円を超えること、設置からの年数が長いため、器具の不具合等が発生し、自治会の維持管理負担が大きくなり、地区要望がある。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	H23以降の維持管理については、予算の範囲内で最善の方法を検討する。